



本校ホームページ新
QRコードです。スマホ
などからも閲覧できま
す。ご活用ください。

実りの秋を迎えて ～山形県鶴岡市の農家の方との出会いから～

副校長 中井 一雄

空を見上げると、雲の様子が夏から秋へと移ってきたのを感じます。日頃より本校の教育活動にご理解ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

9月14日には、学校応援団の皆様が中心となって「なつとも小フェスタ2024」が盛大に行われました。子供たちの笑顔があふれ、楽しむ姿が見られました。これからも子供たちのために、地域の皆様と保護者の皆様と学校が手を携えて教育活動にあたってまいりたいと改めて感じました。

また、9月23日から25日の2泊3日間、6年生が武石移動教室へ行きました。この3日間は天候にも恵まれ、全ての行程を無事故で終えることができました。帰校式で見た6年生の姿は、一步も二歩も成長したようでした。

さて、今年の6月6日に山形県鶴岡市の農家の方をお招きし、5年生を対象に稲作のお話を伺う特別授業を行いました。一時期はリモートで実施した年もあったと伺っています。十数年続いている特別な授業です。今年は3名の稲作農家の方が来校され、こだわりの米作りの方法を分かりやすく教えてくださいました。

この地区の米作りは無農薬で、合鴨を水田に放し、「合鴨農法」を長年実践されているのだそうです。多くの稲作では、害虫や稲の病気から守るために、安全な農薬を散布するのだそうです。安全な農薬ですので、問題はないのですが、鶴岡市のこの農家の方々は、手間を掛けて農薬を使わない米作りを継続しているのです。普通のお米と比べると味も随分美味しいそうです。

合鴨は、日本に一軒しかない合鴨業者から買い付け、田んぼの水を抜くころ、育った合鴨を合鴨業者に戻し、無農薬の田んぼで育った美味しい合鴨として出荷されていくのだそうです。ここは、両者にとって大変都合のいいことなのだそうです。

ところで、食べ物の大切さは幼いころから、ご家庭でも学校でも子供たちに伝えてきているところです。ご家庭では、お子さんに食べ物の大切さをお伝えになるとき、

- ① 「動物や植物の命をいただいているということ」
- ② 「お米一粒を育てるのにも、一年かかること」
- ③ 「生産者（第一次産業）の方々や料理をしてくれた人の思いに失礼がないようにすること」
- ④ 「世界中には、食べ物が十分でない国がたくさんあるということ」
- ⑤ 「食べ物を粗末にするとバチが当たること」

など、様々な視点で、食べ物の大切さをお子さんに伝えてきているでしょう。

今回の鶴岡市の農家の方々は、消費者のために、より安全で美味しいお米を作るための熱い思いを共有され、手間のかかる大変な農法にこだわっています。このことが子供たちに伝わり、「食」に対する意識が高まったことと思います。2学期になり、社会科や総合的な学習の時間で、子供たち一人一人が学んだことを咀嚼し、さらに課題を見出し、考えたり調べたりして、学びを深めています。山形県鶴岡市の農家の皆様、ありがとうございました。

結びに、宮城県の民謡「米節」の一番を紹介します。

「米節」(宮城県民謡)

米という字を 分析すればヨ一 八十八度の 手がかかる
お米ひとつぶ 粗末にゃならぬ 米はわれらの 親じゃもの

